

いろいろ

彩のお話会 Vol.2

～ふたりで紡ぐ「詩とメルヘン」の世界～

「詩とメルヘン」は1970年代に創刊された、詩・ファンタジー、イラストの読者参加型の文芸誌。編集長は漫画家のやなせたかし。多感な時期にこの雑誌に触れた二人が、思い出を語りつつ、そこから生まれた作品を上演します。ファンタジーの世界を一緒に楽しみましょう。

●日時:令和8年11月23日(月・祝) 14時～15時30分
(13時40分開場)

●会場:並木北コミュニティハウス ●入場無料 ●定員:30名

里実和佳&ゆやまくみこ 朗読と紙芝居とよもやま話



「詩とメルヘン」について



投稿詩の中から

朗 読:里実 和佳



「詩とメルヘン」から生まれた本

語 り:ゆやま くみこ



『木の葉の魚』 作:安房直子

朗 読:里実 和佳



『こたえはひとつだけ』 作:立原えりか

紙芝居:ゆやま くみこ

★申込:10月19日(月)9:00 から (来館又は電話でお申し込みください。)

並木北コミュニティハウス

金沢区並木 1-7-1 並木第一小学校内 TEL:045-774-3405

「詩とメルヘン」とは

1973年創刊。詩、ファンタジー、イラストの読者参加型の文芸誌。責任編集は漫画家・絵本作家のやなせたかし氏。素人の読者からの投稿を広く募集し、採用作品は、プロのイラストレーターによる挿絵付きで、誌面をたっぷり使って掲載されました。また、掲載号の巻末には作者のコメントも載り、採用された場合は掲載料ももらえるという今までにない形で、そのジャンルが好き、創作が好きという老若男女が飛びつきました。濃い形で参加に、作品が掲載された人は、今でもその思い出を大切にしている(と思われます)。

イラストにも力を入れており、1980年頃からイラストについても投稿の募集を開始し、若く初々しいイラストレーターが何人も誕生しました。

2003年休刊(通算385号)。



作品掲載していた OR ここから誕生した作家・イラストレーター (一部)



✿ イラストレーター

味戸ケイコ、牧村慶子、葉祥明、永田萌、宇野亜喜良、北見隆、林静一、黒井健

✿ イラストコンクール受賞者

おおた慶文(第1回最優秀賞)、早川司寿乃(第1回佳作)、きたのじゅんこ(第2回佳作)、高田美苗(第3回佳作)、こみねゆら(第5回佳作)

✿ 童話作家

安房直子、立原えりか、東君平、名木田恵子、岸田衿子
小手毬るい(投稿者、詩とメルヘン賞受賞)



【演者紹介】

ゆやま くみこ

横浜市金沢区在住。

ミュージカル劇団サムシング出身。金沢紙芝居の会「かなみん」メンバー。紙芝居ニストゆやまくみことしても活躍中。

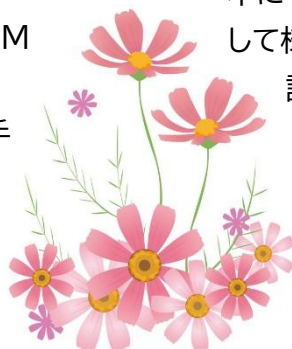
富岡のコミュニティサロン「ジュピのえんがわ」にて定期的に紙芝居を実演。金沢区の昔話から、紙芝居を製作している。

2022年10月より金沢シーサイドFMパーソナリティ。音楽会のMC多数。

こどもの頃の愛読書は、「暮らしの手帖」と「詩とメルヘン」だった。

現実の中に宿るファンタジーの世界の虜になり、今に至る。

紙の本を愛する。



さとみ わか 里実 和佳

横浜市金沢区在住。

「金沢おはなしネットワークウェズランディア」代表。

学生時代から活動を始め、金沢区では20年以上読み聞かせやブックトークの活動を実施。区内の小・中学校での本のボランティア活動多数。

最近は、区内・区外問わず読書会に参加して、本について語り合うことにハマっており、本を通して様々な人と繋がりたいと考えている。

読書会の初回に持っていくのは、『風が強く吹いている』(三浦しをん:作)。朗読するのは、安房直子さんの作品が多い。

ライフワークは、NHK 人形劇でハマってからずっと大好きな「里見八犬伝」語り。
(名前の“里実”は、“里見”から)